

こんにちは、 日本共産党井上けんじです



日本共産党南地区委員会 ☎ 353-6311 自宅 ☎ (F兼) 691-3323 (携帯) 090-7880-9442
 日本共産党京都市議員団 ☎ 222-3728 FAX 211-2130
 市議員団ホームページ <http://cpgkyoto.jp/> E-mail info@cpgkyoto.jp 2022年5月29日



6月1日、市議会本会議を傍聴しよう

健康増進センター・ヘルスピアを来年3月で廃止すると、市長が提案しています。その採決が6月1日に迫っています。各党の賛否の別を、是非、直接、お確かめ下さい。日本共産党は反対ですが、賛成が多数なら決まってしまう。6月1日、午前10時～。市役所2階の共産党議員団室にて、傍聴券を受け取って下さい。

存続を求める署名が、既に4,933筆集まり、市長や議会宛てに提出されています(5/23時点)。

写真は、市役所前で訴える、「存続を求める会」の橋見治郎代表とピラをまく井上議員ら(5/23)。

※5月20日、質問の予定でしたが、議会運営上、当日の質問はしませんでした。

市長、引続き「改革」(市民サービス切り捨てと公共料金等値上げ) 推進を表明

市議会本会議答弁

23日、市議会本会議で各党代表質問。日本共産党から、西野さち子(伏見)・平井良人(中京)両議員が質問。市長らの答弁と井上議員の感想を紹介します。

※ ※

● 質問 保健所を各区からなくした為、地域での感染拡大防止・保健予防活動が後退。コロナ感染拡大の一因に。各区に戻すべき。
 ○ 答弁 各区に保健福祉センターを設置した

(感想 保健所とは無関係)。一カ所にまとめ、一貫した対応で大きな効果を発揮(各区にあっても、市役所からの指示で一貫させるのが可能なのは当然)。
 ● 北陸新幹線延伸計画は中止を。

○ 利便性向上、災害時にも役立つ。環境にも配慮される。市負担は極小化をめざす(「サングードバード」で十分。災害で止まることはないので。市内の地下を

通って環境への影響は必至。市の負担も不明。高くつくおそれも)。
 ● 「財政危機」は誇大広告だ。

○ 行財政改革は財政が厳しいからではなく、各制度が持続可能になるよう再構築。財政好転は一時的なものでやはり厳しい(改革とは切捨て・値上げのこと。「厳しいからではない」と思わず本音が出たのか。切捨て・値上げありきで「財政危機」は後からの理由付け)。
 ● 保育園補助金削減を撤回せよ。

○ 各園の裁量を発揮できるようにした(各園をバラバラに)。



コロナ禍、物価上昇から市民の生活を守る集会に参加(5/22)

● 物価高から中小零細事業所を守れ。消費税減税・インボイス中止
 ・大企業への適正課税を、国に求めよ。
 ○ 事業者が厳しいと認識はしている。物価高対策は国に求めていく。税金の在り方は国の問題。インボイスは適正課税の為(自治体として独自の対策は無い)。
 ● 非正規雇用を減らす為、労働者派遣法の改正を国に求めよ。
 ○ 非正規労働者の待遇改善を国に求めている。
 ● 大学の学費軽減を。

給付金拡充や物価高対策が少し改善

今年度の非課税世帯にも10万円の給付金が実現へ。また、低所得の子育て世帯への給付金も併せて補正予算が組まれました。物価高対策の事業者支援の補正は6月の予定です。

● 市バス・地下鉄運賃値上げ方針の撤回を。○ コロナの影響等で減収。運賃改定は事業を守る為(独立採算制に運賃収入で賄う)にこだわっている限り展望はない。国の責任発揮を強力に求めるべき)。
 ○ 市外出身の学生が多い。国において拡充が図られている(市独自の給付制奨学金制度を創るべき)。



弘法宣伝

21日、たけやまさいこさん・こくた恵二衆院議員らと弘法宣伝